

## 進駐軍と町工場

兄が経営していた町工場を閉鎖して整理していたら、1951年に親父が進駐軍にあてて書いた手紙が出てきた。町工場は兄が親父から引き継いだものだった。内容は、納品した品物の納期が遅れたことで進駐軍が罰金を科そうとしたことについて、納期の遅れはそちら側のミスによって発生したのであり、罰則を免除してもらいたいとっている。朝鮮動乱は1950年におきており、日本の戦後復興は朝鮮動乱の特需によるところが大きい。そうした背景を考えて読むとなかなか面白い。今の若い人にはわからないかもしれないが、薄いタイプ用紙2枚の間にカーボン紙を挟んでタイプを打ち、オリジナルとコピーを同時に作って一方を控えとする。出てきたのは控えであるが、署名を見ると確かに親父の字だ。親父は職人だから、英語で手紙を書くのは大変だったろう。タイプライターは誰かから借りたのだろう。わたくしはその時1歳であり、衛生状態が悪かったので赤痢になったりして手がかかったし、私を生んだ母親も病弱で入院したりして、家庭的にも大変だったはずである。その中で、まだ若かった町工場の経営者が、必死に進駐軍とわたり合っている様子がまず面白い。こうした生き方をしていた中小企業の経営者の中から、大企業へと発展していく企業が生まれて、高度成長期を支えることになったのだろう。

もうひとつ面白いのは、作った品物と送り先である。製品は横須賀の基地から、沖縄へ送られている。多分、朝鮮動乱のために沖縄に基地の拡充が必要になり、将校宿舎のようなものを建造した。その家具調度を日本で調達したのだと思う。調達の公示の時の資料だと思われるものがあり、何を調達したのかがわかる。調達したのは各種の皿やスプーンであり、それも、紅茶用とかデザート用とか結構贅沢な感じがする。朝鮮動乱における国連軍の後方基地の雰囲気わかる。

今回、ブログに挙げたのは親父が書いた手紙のコピーとその訳文であるが、契約時に取り交わした資料や送り状のようなものもあるので、徐々にブログに挙げていきたい。こうした資料は、歴史的資料としての価値があるのかもしれない。わたくしが死ねばたぶんこうした資料はどこかに失われてしまうだろう。興味があって資料として保管していただける方があればお譲りしたい。

また、翻訳してて、HQ.J.L.CやMTSなどの略号の意味が分かりません。ご存知の方がいらしたら教えてください。

(20170512)

1951 年

契約担当官、調達部門、J.L.C. 司令部

Maylon E. Scott 中佐 宛て

合資会社アオイ製作所

東京都新宿区下落合 4 丁目 1576 番地

電話 56-8023

より

案件 配達遅延契約 第 FEC-7951

品目番号	商品名	数量	契約配達日	配達日 (実績)
3	水入れ缶	147	8 月 22 日	9 月 22 日
37	平皿	147	8 月 22 日	9 月 22 日

理由

サー、以下の事情をご高配のうえ、納品の遅延に関する罰則条項の適用の除外をお願いします。

品目 3

1. 仕様書には、水の容器の大きさがアメリカ・ガロンであるかイギリスガロンであるかが書かれていませんが、水入れは、注文書の図の寸法で作られたものです。
2. 水入れの検査は、その後、1951 年 8 月 20 日に、検査官によって、イギリスガロンとして計測され、その結果、不合格となりました。
3. その後の MTS の立会いのもとで行った容量に関する検査では、どの容器も求められる容量である 5 アメリカ・ガロンであることが確かめられました。
4. 私たちは、9 月 10 日に再検査を要求しましたが、1951 年 9 月 14 日に再検査することが決定しました。しかし、検査官が何らかの病気になって、検査が遅れました。そのため、検査は 1951 年 9 月 15 日の行われ、梱包の検査が終了したのは、9 月 20 日、納品が行われたのは 9 月 22 日となりました。

品目 37

1. 指示書では、1.5kg となっていますが、皿の厚さを 3mm にすると、製品の重量は実際 2kg となります。
2. 厚さは厳格に指示書通りにしなければならないが、重さは、1.5kg 以上になってよいことを口頭で認めました。

3. しかし、検査官は、重量の変更に関する指示に文書に署名がないことを理由に、不合格としました。
4. その後、私たちは、MTS から署名をもらい、再検査に合格しました。

極めて誠実に

署名

黒倉 正雄

合資会社 アオイ製作所社長